

# 四万十川物語 第一章

平成9年7月10日

## メッセージ

### 高知県知事 橋本 大二郎

皆さん、こんにちは。高知県知事の橋本大二郎です。

このたび、日本の「新しいなか」、高知から全国の皆さまに四万十の風を感じていただきたく、FAX通信をスタートさせることといたしました。

四万十川は、全国の河川が変わりつつある中で、まだまだ豊かな自然が残る、多くの魅力をもった河川であり、この「宝」を、子どもたちに引き継いでいかなければならないとの決意を抱いております。

具体的には、平成7年4月から、県庁の中に『四万十川対策室』という組織を設置し、四万十川流域に関する総合対策を進めております。それから2年有余が経過した現在、四万十川が抱えている課題やその解決の為の新たな取り組みなどについて、全国に理解が広がりつつあります。

一方、全国の方々からは、「四万十川には行きたいけれど、どこに行けばいいかわからない」といった声や、資料提供などの問い合わせがよく寄せられます。これまでは、情報が観光に偏っていたことや、窓口がなかったことも大きな原因であると考え、四万十川流域の人々、自然、生活や取り組みなどを高知県から紹介していきたいと考えました。

内容にストーリー性をもたせたいことから名称を「四万十川物語」とし、当面はFAXを活用することとしました。

これから始まる物語をご覧いただき、ご意見やご要望をお寄せいただくとともに、皆様からの情報提供もいただければと考えています。

これからも、高知県を、四万十川を、よろしく願いいたします。

## 一口メモ

### 『四万十川対策室とは?』

- 発足は? 平成7年4月1日
- なぜ、特定の川の名前をつけた部署ができたのか?

- ①全国的に高い評価を受けている四万十川が大きく変わりつつあったこと
  - ②浄化対策を進める一方で、道路整備等により自然環境が失われつつあるなど、総合対策が行われていなかったこと
  - ③「流域」を対象とした総合対策がなされていなかったこと
- などから、清流四万十川を後世に伝えていくための総合対策を進める横断的な組織として発足

- 何をしてきたのか?

「清流四万十川総合プラン21」策定  
「四万十川フォーラム21」開催等

- これからどうするのか?

清流の森づくり・四万十川利用ルールの策定・沈下橋保存方針の策定等、プランの方向に沿った施策や事業の実現を図っていきます。

※ 四万十川に関する総合窓口  
として、お使い下さい。



## 四万十ウィーク(7月22日~28日)の催し

### ①第7回四万十あつたがサイクリング

【24~26日:源流(東津野村)~最下流(中村市)】  
196kmまるごと体感!人と自然と清流の夏

### ②僕の声・私のお聞きします

【25~26日:窪川町、中村市、東津野村】  
フレッシュな目で見て感じたこと  
…お聞きします!

### ③四万十源流点の森づくり

【26日(土):東津野村】  
山と川と海のつながりをみんなで考えよう  
(植樹と間伐体験)  
…「森は海の恋人」の四万十版…

### ④全国トロッコ列車サミット

【27日(日):西土佐村】  
パネルディスカッション

「自然を守る旅人」  
美しい自然があるから、  
トロッコ列車の旅が楽しい

### ⑤四万十川クリーン大作戦

【27日(日):流域一帯】  
流域内外の人々が心を一つに  
清流保全

四万十川物語—第二章—  
【平成9年7月25日】



## 《メッセージ》

### THE RIVER SHIMANT

今日は『四万十川の日』（メモ）です。

四万十川物語も特集号を組みました。

私～四万十川～も、1983年（昭和58年）にNHK特集「土佐・四万十川」で“日本最後の清流”と全国で紹介されてから、はや14年が経とうとしています。お陰様で、マスコミや口コミで全国に広がり、今や「最後の清流」は私の代名詞にもなっています。大変有り難いことです。

ただ、最近「最後の清流」が一人歩きしているような気がしてなりません。私を見に来てくださる方の多くは、私の顔（水面、水質）だけを見て、「綺麗だ」とか、「大したことはないや」と言って帰っていきます。しかも、私に近づくことなく（水面まで視線をおろさずに）、ある人は車で走りながら、ある人は橋の上から見て！ 私には顔だけでなく服（川から連続した周囲の山々や白い砂州）を着た身体や手足（沈下橋など）もあり、顔だけの美人ではないと思っています。

また、洪水時には泥服を着た姿になります。

更に、忘れてならないのは、地域には明るく心の優しい方々が10万人以上も生活していることです。人々が生活し、なおかつ私との結びつきが強いのが大きな特長です。このような私を、ある人は「人々の息づかいが聞こえる川」と言い、ある人は「本物の川の匂いがする」と言ってくださいました。今の私は、この言葉が大好きです。

これからも、「日本最後の清流」の名に負けない魅力づくりに努力いたしますが、「清らかな流れ」だけなら人の住まない溪流など、全国どこにでも存在します。私は、清流も魚も人も全てが調和した自然の姿を、子供達に伝えたいと思います。NHK特集の副題が、～清流と魚と人～ となっていたことを想いつつ……。

## 《四万十川情報》

### 《～一口メモ～【四万十川の日】》

現在、皆さんに親しまれている「四万十川」の名前は、昭和39年の河川法制定時、正式には「渡川」でした。

しかし、全国的には通称である「四万十川」の方が浸透していったことから、「四万十川」を正式名称にという動きが起こり、

平成6年7月25日に正式に渡川から四万十川へ名称変更がなされました。これを記念して、平成7年度に策定した

「清流四万十川総合プラン21」において、毎年7月25日を流域の「四万十川の日」とし、全国の方々の目を四万十川に向けていただく日としました。

さらに、この日を含む1週間（7月22日～28日）を「四万十ウイーク」と定め、四万十川クリーン大作戦など、県内外への情報発信を集中的に行います。

### カヌーソン大会

（8月10日）

四万十川でカヌーによるマラソン大会を開催！

【参加申し込み先】  
中村市商工観光課  
(TEL 0880-34-1111)  
7月31日まで

### 四万十フレンドシップ倶楽部

#### 会員 大募集中!!

四万十川への思い入れと支援をくださる全国の個人・法人の方！（会費：無料）  
問合せ先：四万十川対策室

### ☆四万十川の日・四万十ウイーク 関連イベント☆

- ◎源流点の森づくり(26日)：流域内外から約100名が植樹に参加し、川の源である森林を守り、育てます。
- ◎第7回四万十川クリーン大作戦(27日)：流域8市町村が心を一つに一齐清掃に取り組みます(約1万人の参加)。
- ◎全国トロッコ列車サミット(27日)：「自然を守る旅人」をテーマとしたパネルディスカッションなど。

# メッセージ

## 四万十川があった土佐

四万十川カメラクラブ会長  
河川環境保全モニター  
西内 燦 夫

23才のティムはTVカメラマン

16才のデイビットは高校生。

ふたりとも、カヌーは少し経験があるが、日本は初めて、四万十川も勿論初めて、と言う米国人である。7月20日。雲ひとつない猛暑。この二人を連れて川下りをした。

私自身は通じるんだ、と一方的に信じている英語で、一方的に注意事項を言い放ち、訳のわからん質問は一切無視しての出発だった。

出発間もなくは、真直ぐ進まなかったデイビットも、私のアドバイスが効いてかすぐに上達した。

「マッスグイク、ヒップ、ツイスト」

「スパゲティ、うどん、コシ ショウブ」

カヌーというのは、国籍、人種にかかわらず、指導さえ良ければ、年齢が若いほど速く上達することが、再確認されたまではいいが、デイビットの苦勞に対しての、ねぎらいの心を込めた、

私の「褒め言葉」が通じなかったのは、日米友好のためにも、残念に思えた。

しかし、、、「褒め言葉」が通じないってことは、「アドバイス」も、、、か？

さて、四万十川名物の、沈下橋に通じかかったところ、地元高校生の一団が、橋の上から飛び込みをしている最中だった。いたずら小僧のデイビットに

「Try it there ?#」

「YAHOO,,,,,,,,,,,,,,」

10名近くの若者が、「インターナショナル！ インターナショナル！」「ツギヤザー！ ツギヤザー！」訳の解からない言葉を発しながら、橋の上から飛び降りる水音は、中村市三里の谷間に大きく響いた。

地元民の私は、遠来の観光客を乗せた屋形船の行き来する場所なので、

四万十川の持つべき「情緒」や「イメージ」を心配したが、、、、、、

この騒ぎには、周囲のキャンパー、アマチュアカメラマン、屋形船の観光客、そして、吟行中の俳句会の一行までもが拍手喝采をしていた。

ここで二つ学んだ。

観光は、その地方の歴史文化に触れ学ぶ姿勢も大事だが、まず「楽しくなければ、、」私の英語力より、若者同士の握手の方が、心が通じている。

まあ、とにかくにも、カヌーによる川下りを二人は大いに楽しんだはずだ。ここは名高い四万十川だ。

「カヌー」の方が「飛び込み」なんかよりも、上品で、川の優雅さにマッチしている、、、、

今回の旅行の最高は「カヌー」だったと、日記に書くだろう、、、、と予測した。

そして、帰りついた二人からの感謝の言葉、、、、

「KAYAKKING オモシロイ」、、、フムフム、日本語少しは話せるな、、、、

「JUMPING サイコー」、、、ヨヨヨ、、、、

「最後の一言、余分だろうが、、、、」

若者の心を理解できない地元民がここに居る。

### 一口メモ

#### ～四万十川流域住民ネットワーク～

メッセージを寄せてくださった西内さんは、流域で活発に活動している「四万十川僻村塾」の運営委員長であり、同塾らが発起人となってH9年2月に結成された流域住民ネットワークの代表世話人でもあります。

構成団体数：22（増加中）

目的・活動：個々の団体や個人の活動を母体にしなが、住民自らが主体となり、（愛媛県側まで含めた）流域での有機的なつながりを持った住民活動の展開。

窓口FAX：0880-34-1967

### ～四万十川情報～

#### 四万十フレンドシップ倶楽部

個人・法人会員 大募集中！

（詳しくは四万十川対策室まで）

※お願い～マナーを守って～

打ち上げ花火など音の出る花火は地元住民の睡眠の妨げになっています。キャンパーにとっては一夜のことでも、住民にとっては毎日のこと。

高知県では、本年度、「四万十川の利用ルールづくり」を行うこととしています。

## メッセージ

### 四万十川のためいき・・・

四万十川村策室  
(市原利行)

四万十川は人を呼び、人をひきつける。  
え！と思われる人も来てくれる。勿論、マスコミの方も、若者も、家族連れも、  
海外の方も・・・

今年の漫画甲子園で優勝した沖縄県の高校生は、『沈下橋(※)』から飛び込み  
遊んだとか。

四万十川は来る人誰も拒まない。しかし・・・。

とある夏のキャンプ場。愛媛県の若者グループが河原に車で乗り込むやバーベ  
キューの準備。スイカは四万十川へ。2時間後、彼らは平然と立ち去った。その跡  
は・・・アアー！！

スイカの皮、残飯、ビニール袋、真っ黒になった焚き火の跡etc.

四万十川の悲しそうな顔。見かねた人が全て片づけてくれたが、毎年どの河原で  
も繰り返される、**四万十夏の風物詩**。

早朝。霧が立ちこめる川面にコイが大きくジャンプした。又コイよ。四万十川は  
人を疑うことを知らない。

四万十川は人を呼び、人を引きつける。来る人誰も拒まない。  
しかし・・・。

そろそろ考え直す時期ではないか。自然を守る旅人はJR四国のコピー。まさに、  
四万十川を愛し、四万十川を守り、地域の人達と交流できる人だけが、訪れる資格  
があるのだ。

私たちは建設省、流域市町村、住民の方々とは知恵を出し合い、四万十川ルールを  
つくることを決心した。来春には出来上がる。

来年の夏には、四万十川のためいきがよろこびに変わっていることを念じつつ・・・。

－この物語は、フィクションではありません。－

### 一口メモ

#### ～沈下橋～

沈下橋とは、欄干がなく、大洪水の時に橋そ  
のものが水中に沈むように造られた橋のこと  
です。

現在、四万十川流域には、四万十川本川の22  
カ所と支川を併せ、全部で48カ所に現存して  
います。

沈下橋は自然の中に調和し、水面との距離が  
近いことから、人が川に親しみを感じ、中には  
自然の飛び込み台になっているところもあり  
ます。

県では、四万十川流域の基本方向を示した「  
清流四万十川総合プラン21」に沿って、生活  
文化的遺産として、沈下橋の保存方針を策定す  
る作業を進めています。



### ～四万十情報～

四万十川源流点の村  
東津野村を愉快地に体験しませんか！

## いながづくり研究所

参加モニター大募集！

いろいろな仕事を持った東津野村の若者が、新しい  
いながづくりを考える研究所。それが「いながづく  
り研究所」です。村外に住む参加モニターの方に、  
年4回の愉快的イベントを通じて東津野村を体験して  
もらい、意見を交換しながら、よりよいいながづく  
りにつなげていこうとするものです。

参加費無料・定員30名

申込締切：平成9年9月30日(火)

お問い合わせ・お申込みは

東津野村(企画財政課) TEL 0889-62-2311

テレビ高知 TEL 0888-80-1111